

(1) 環境負荷を低減する持続可能な管理技術の開発

①肥培管理技術方法の開発

脱プラスチックを目指した肥料の試験を開始しました

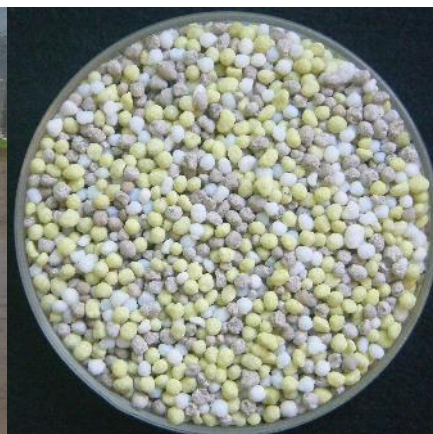
水稻栽培で広く使用されている被覆肥料(プラスチック被覆)には省力(施肥は田植え時期の一回のみで追肥作業が不要)という利点がありますが、使用後の被覆殻が河川へ流出することによる環境汚染が問題になっています。

本年度から開始したエダマメプロジェクトでは、エダマメと水稻の輪作体系を通じて環境負荷を低減することを目指しています。その一環として、プラスチックの代わりに硫黄で被覆した肥料を用いた水稻の施肥試験を開始しました。硫黄は土壌にも含まれる肥料成分で、硫黄被覆の被覆殻は土壌中で分解されます。また、プラスチック被覆の肥料と同様に、田植機での側条施肥が可能であり、省力的かつ施肥量の削減が可能です。

5月27日、田植機に肥料を積み込み、移植と同時に施肥を行いました。今後は、水稻の生育や土壌への影響について調査を行います。



田植えと同時に側条施肥を実施



供試した肥料(右)

*黄色い粒が硫黄被覆肥料